

風に遊ぶ

～記憶と日常を結ぶみち～

□ 設計主旨

本提案は、近年維持が問題とされている墓の集合体である霊園と都市との関係の再構成だが、海外では墓地公園として日常に組み込まれている様に、一般的な手法の一つとしても意識されている。

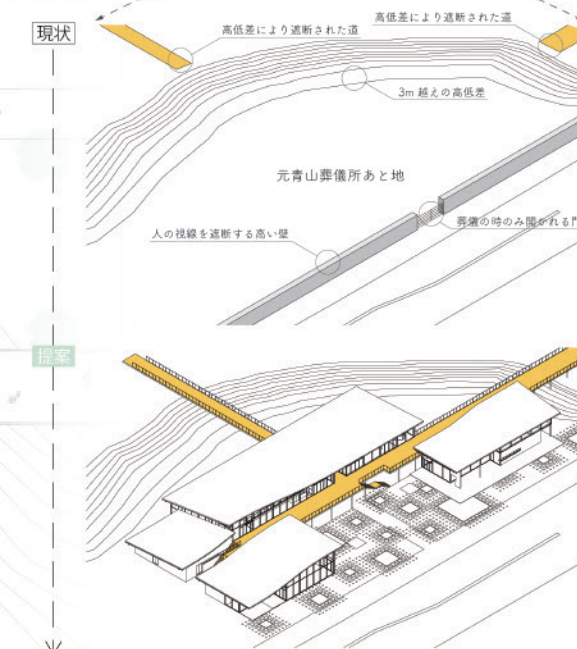
この霊園も、①静寂で落ち着いた環境を演出する豊かな緑、②墓への動線が重視され縦横に形成されたみち、③都市の日常と隔離する物理的境界の3要素が揃っている。

そこで、本提案では東京都港区の青山霊園をケーススタディとし、現在駐車場等が整備されている、霊園内ではあるが外部との中間領域となり得る敷地を選定し、目的を持つ葬儀や法事時（霊園）と目的を持たない日常時（公園）の両面に適応する機能性や空間性の意識した、多目的で様々なプラットフォームになり得る空間を提案する。

□ 敷地情報



□ 提案



公園のように多種多様な人々が集まり、各々のアクティビティが行われ、霊園が新たなプラットフォームのあり方として定義される。

